

SDGsって、なあに？

ワンダーブックの新しいコーナーとして、1年間「SDGs」を取り上げます。ワンダーランドでも、数回取り上げる予定です。今、世界で注目されているこのキーワードを、絵本の読み方とともにご紹介します。

お話し／平山許江（保育案者） 取材・文／清水洋美

Q SDGsって、
なんですか？

A よりよい世界をつくるために、
世界中の国が力を合わせて
取り組むプロジェクトのことで、
Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)の頭文字を
とったものです。



SDGsは2015年の国連サミットで採択されたもので、2030年までに各国の政府、企業、個人が取り組むべき、17の目標を掲げています。豊かな自然や資源を未来に残し、だれ一人取り残さず幸せに暮らす世界を作るための、大きなプロジェクトです。

4月号は「たいせつに食べよう」(「ワンダーブック」P.30～31、「ワンダーランド」P.27～30)

「食べ物はたいせつ」をどう伝える？

食べ残しは、結局ゴミとして捨てるしかありません。これについては「食べ物なのに、捨てちゃうなんてもったいないね」と、ストレートに伝えます。子どもにもよくわかる理屈です。

また別のアングルから、「豆腐は、お豆腐やさんが夜中の3時に起きて作ったんだよ」「調理師さんが、栄養を一生懸命考えて作ったんだよ」と、かかわった人の思いを伝えることも、子どもにわかりやすい内容です。

食品ロスが地球に負荷をかけるという内容はかなり高度なので、完全な理解にこだわらず、「みんながたくさん食べ残すと、ゴミだらけになっちゃう」というイメージが伝われば、成功です。



もっと楽しむ・絵本プラス

使わない野菜は、ままごとに

キャベツの外葉やにんじんの葉、みかんの皮などは、ままごとの素材にすると子どもがとても喜びます。なにしろ「本物」ですから、それを自分の手で扱うことは自信につながるし、なによりおもしろいのです。パーティー用のプラスチックのナイフなどを道具にすると、安心して切る遊びができます。

最後はどうしてもゴミになりますが、それを確認するのも学びのうちです。



ここがポイント・保育プラス

自分で食べる量を決める

「大切に食べる」ことを子どもが自分で実行するには、自分が食べられる量を考えて、自分で決めることが大切です。園での食事はあらかじめ配膳されていて分量が決まっている場合が多いのですが、食育が盛んになってきた昨今では、その中で自分が食べられる分と、そうでない分を取り分けてから食べるようにしている園も増えていきます。完食を強いるのではなく、自分が決めた量をきちんと食べた場合に、それをほめることが大切です。また、個別によそってもらふ形式の場合は、よくばって食べられないほどの量をもらうのはダメだよ、としっかり伝えましょう。

パンは大好きだから、
おかわりしたいな
ほうれんそう……
ごまあえは半分
くらいかな



月刊絵本で育つ「10の姿」 社会生活との関わり

野菜を育てた農家の人、それを組み合わせ、栄養や好みを考えて料理に仕上げた調理師さん。園で食べるひと皿の中には、本当に多くの人の時間と気持ちがこめられていま

す。それを知ると、子どもたちはその価値に気づいて大切に扱うようになります。絵本をきっかけに家庭でも「大切に食べる」ことを話題にしてもらい、家族のあいだで考えを言い合ったり、それをもとに考えたりすることにつながるといいですね。